

記者発表資料

令和7年11月13日
東北地方整備局

東北地整管内で実施しているクマ対策事例集を共有！
～各現場におけるクマ被害の未然の防止に向けて～

東北地方整備局では、クマの出没が頻発している状況をうけて、工事現場等で実施するクマ対策の参考とするべく、東北地方整備局管内の「工事現場等におけるクマ対策の事例集」を作成しました。

管内の工事現場等では、熊鈴や熊スプレー等のクマ対策は既に取り組んでいる状況で、更なるクマ対策への取り組みとして、大音量スピーカー等の現場存置、狼の尿や唐辛子等の匂いによる忌避剤の使用、監視カメラの設置による警戒など、各現場で様々な工夫をしております。

このたび、東北地方整備局の工事現場のみならず、東北6県の地方公共団体及び建設業関係団体等が実施するクマ対策の参考としていただくため、本事例集を公表することとしました。

1. クマ対策の事例集について
- 東北地方整備局管内で実施しているクマ対策について、東北6県の地方公共団体及び建設業関係団体に参考としていただくため、東北地方整備局管内の工事現場等で行っているクマ対策の事例を紹介したものです。
2. その他
- クマ対策の事例集は、以下に掲載します。
- <https://www.thr.mlit.go.jp/bumon/b00097/k00910/jikogaiyou/subindex.html>
- ※本事例集は追加対策等があれば、随時更新します。

<発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北建設専門紙記者会>

【問い合わせ先】

東北地方整備局 企画部 技術管理課長 高田 浩穂（内線3311）
企画部 技術管理課長補佐 荒谷 義成（内線3314）
住所：仙台市青葉区本町3-3-1 仙台合同庁舎B棟
電話：022-225-2171（代表）

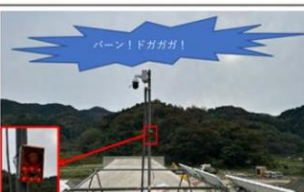
- 基本的なクマ対策として、東北地方整備局管内の工事現場等では、既に各種取り組みが進められている状況
- 本事例集は、現場の工夫を集約したもの
- 例）・大音量スピーカー等の現場存置
・狼の尿やトウガラシ等の匂いによる忌避剤の使用
・監視カメラ設置による警戒
- 東北地方整備局の関係者や工事・業務等の受注者等、東北6県の地方公共団体、建設業関係団体等に対し、東北地整管内のクマ対策を共有し、クマ被害の未然防止に向けた取り組みの参考としていただくもの

【概要】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策

- 基本的なクマ対策としては熊出没情報の収集、熊よけグッズの携行（熊鈴・熊撃退スプレー・笛やホイッスル等）、複数人行動の徹底、食料品の放置はしない等が挙げられ、東北地方整備局管内の工事現場等では既に取り組んでいる状況です。
- また、東北地整管内の更なるクマ対策への取り組みとして、大音量スピーカー等の現場存置、狼の尿や唐辛子等の匂いによる忌避剤の使用、監視カメラの設置による警戒など、各現場で様々な工夫をしております。
- 本事例集はそのような現場の工夫を集約したもので、東北地整の関係者や工事・業務等の受注者等、東北6県の地方公共団体、建設業関係団体等に対して東北地整管内のクマ対策を共有し、クマ被害の未然防止に向けた取り組みの参考としていただくものです。



▲熊スプレーの噴射訓練



▲外部専門家による講習会の実施状況



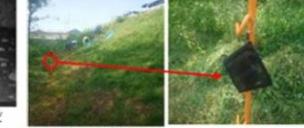
▲忌避剤（狼の尿）の現場存置



▲管理施設内の監視カメラ設置（事例は、動物などの動きに応じて録画するタイプの監視カメラを設置）



▲忌避剤の現場存置



▲管理施設利用者へ注意喚起（記者発表）



▲SNSに目撃情報を発信

【一覧表】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策

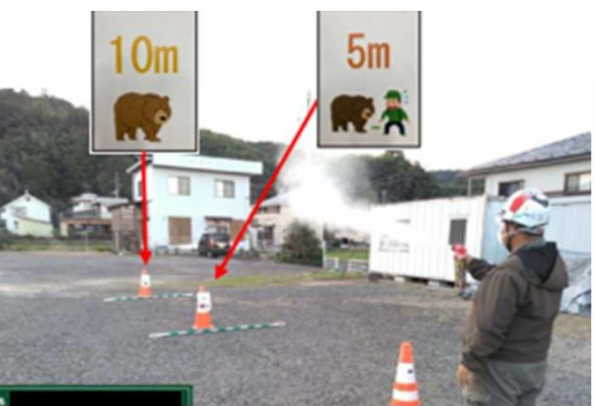
●本資料に掲載しているクマ対策の一覧表

事例集	キーワード	対策内容
1/8	安全教育の充実	・自治体公表資料等を用いて、クマに特化した安全教育を実施。 ・KYミーティングで危険予知を記載。
1/8	熊スプレー（噴射訓練）	・万が一の際にクマ撃退スプレーを確実に使用出来るようにするため、使用方法や噴射距離を確認。
1/8	熊スプレー（携行・常備）	・作業中は熊撃退スプレーを携行する。 ・現場事務所や建設機械等に熊スプレーを常備する。
1/8	注意喚起看板	・工事等関係者や施設利用者等に向けた看板設置により、注意喚起を促す。
2/8	熊鈴	・工事等関係者は熊鈴を携行する。 ・現場事務所等に熊鈴を常備する。
2/8	ラジオ	・ラジオ作動により人の存在を知らせ、熊を遠ざける。
2/8	ホイッスル、ホーン	・工事等関係者は電子ホイッスルを携行する。 ・熊が怖がる猟銃音、熊が嫌がる猟犬の鳴き声、爆竹の音などで熊を遠ざけるホーンを携行する。
2/8	鐘、鳥獣害防除機器	・管理施設内に鐘を常設する事で施設利用者に配慮。 ・センサーにて感知し音声や光により威嚇する鳥獣害防除機器を活用。
3/8	大音量スピーカー、低周波音スピーカー	・24時間常時、夜間のみなど用途に応じて活用 ・管理区間に低周波音スピーカーを設置し、熊を寄せ付けない。
3/8	サイレン、火薬銃	・現場稼働前にサイレンを鳴らし人の存在を知らせ、熊を寄せ付けない。 ・火薬銃を携行、常備する。
3/8	ロケット花火	ロケット花火を鳴らしてから作業着手を徹底。
3/8	熊よけアプリ	・位置情報サービスを使用して、ユーザーがマップに登録されている熊出没ポイント付近にアクセスする場合、警報音で警告。 ・作業中に使用し、人の存在を知らせる。
4/8	獣よけ線香	・通常の線香原料に唐辛子粉末などを練り込んだ線香を携行。
4/8	獣よけシート	・熊が嫌がる匂いを放つシートを現場内に設置し、熊を寄せ付けない。

事例集	キーワード	対策内容
4/8	忌避剤（狼の尿）	・クマの天敵である野生の狼のテリトリーにマーキングする習性を利用して、狼の尿を設置し、クマを寄せ付けない。
4/8	忌避剤（その他）	・忌避剤の携行や管理区間への忌避剤設置。
5/8	赤外線、ドローン	・赤外線センサーカメラ搭載のドローンを活用した把握。
5/8	フラッシュライト	・センサーが車などの動きを検知して、フラッシュライトが自動点灯し、熊を寄せ付けない。
5/8	藪の刈り払い	・クマが潜む可能性のある草や藪などの刈り払いを実施し、クマが潜む場所をなくすとともに、視認性を向上。
5/8	餌の除去、清掃	・クマの餌となる柿の実の除去や管理施設内の栗の落実を除去・清掃する。
6/8	専門家による講話・講演	・専門家に講話を依頼し、事務所職員や工事等関係者が参加（クマの特徴、行動パターン、繁殖、餌探しの行動特徴、クマと出くわした時の防御姿勢など。）
6/8	監視カメラ	・動物などの動きに反応して録画するタイプの監視カメラを設置し、警戒にあたる。
6/8	交通誘導警備員の安全確保	・基本的に1人の作業となる誘導員の安全確保のため、規制箇所にリモコン式の信号と軽自動車を配備して車中から信号を操作できる環境を確保。
6/8	箱罠	・クマ目撃情報を自治体に連絡し、自治体から地元猟友会へ依頼。
7/8	職場駐車場での取り組み	・職員等の帰宅時のクマ被害防止のため、事務所駐車場にて爆竹等による追い払いを実施。
7/8	SNS	・クマ目撃情報があった場合、事務所SNSに投稿。
7/8	河川巡視時の注意喚起	・河川巡視の際、河川利用者に対して注意喚起の呼びかけを行う。
7/8	会社から現場への通知	・作業所・営業所や個人の注意事項等を会社から現場に通知し、周知徹底を図る。
8/8	クマ被害対策パッケージ	・クマの早期発見や移動範囲を狭めることへの効果を期待し、河川管理上支障となる樹木伐採や草本類の踏み倒し等を実施。

【概要】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策

- 基本的なクマ対策としては熊出没情報の収集、熊よけグッズの携行（熊鈴・熊撃退スプレー・笛やホイッスル等）、複数人行動の徹底、食料品の放置はしない等が挙げられ、東北地方整備局管内の工事現場等では既に取り組んでいる状況です。
- また、東北地整管内の更なるクマ対策への取り組みとして、大音量スピーカー等の現場存置、狼の尿や唐辛子等の匂いによる忌避剤の使用、監視カメラの設置による警戒など、各現場で様々な工夫をしております。
- 本事例集はそのような現場の工夫を集約したもので、東北地整の関係者や工事・業務等の受注者等、東北6県の地方公共団体、建設業関係団体等に対して東北地整管内のクマ対策を共有し、クマ被害の未然防止に向けた取り組みの参考としていただくものです。



▲熊スプレーの噴射訓練



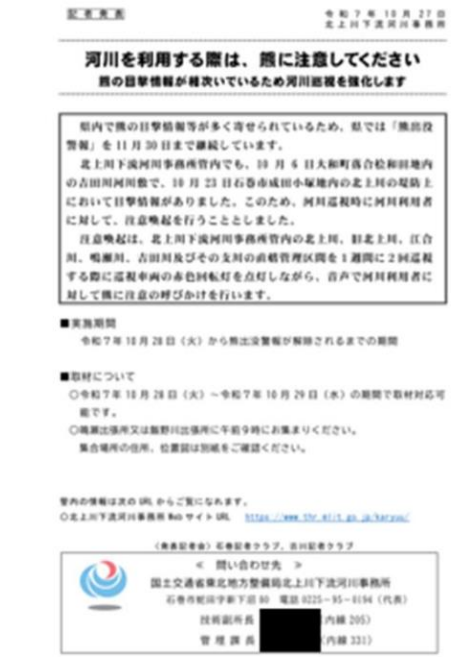
▲外部専門家による講習会の実施状況



▲管理施設内の監視カメラ設置（事例は、動物などの動きに応じて録画するタイプの監視カメラを設置）



▲忌避剤の現場存置



▲管理施設利用者へ注意喚起（記者発表）



▲SNSに目撃情報を発信

【事例集】東北地方整備局管内の工事現場等におけるクマ対策(1/8)

【安全教育の充実（クマに特化した教育）】

⇒自治体公表資料等を用いて、クマに特化した安全教育を実施。
⇒KYミーティングで危険予知を記載。
事例1（クマに特化した安全教育）



事例2（KYミーティングに反映）

安全指示書	
実施日	実施場所
2025.10.10	伊勢湾岸自動車道
実施者	伊勢湾岸自動車道
実施内容	伊勢湾岸自動車道
実施結果	伊勢湾岸自動車道

KY活動記録表	
実施日	実施場所
2025.10.10	伊勢湾岸自動車道
実施者	伊勢湾岸自動車道
実施内容	伊勢湾岸自動車道
実施結果	伊勢湾岸自動車道

※宮城県HPより抜粋

【安全教育の充実（熊スプレーの噴射訓練）】

⇒万が一の際にクマ撃退スプレーを確実に使用出来るようにするため、デモンストレーションを通じて使用方法や噴射距離を確認。
事例1（スプレー噴射距離の把握）



事例2（スプレー取り出しの訓練）



事例3（スプレー噴射の実演）



【熊スプレーの携行・常備】

⇒作業中は熊撃退スプレーを携行する。
⇒現場事務所や建設機械等に熊スプレーを常備する。
事例1（工事等関係者は作業中にスプレーを携行）



事例2（建設機械にスプレーを常備）



事例3（現場事務所スプレーを常備）



【注意喚起看板の設置】

⇒工事等関係者や施設利用者等に向けた看板設置により、注意喚起を促す。
事例1（デジタルサイネージの活用）



事例2（工事現場内の看板設置）



事例3（管理施設内の看板設置）

